

2—2 資質・能力と目指す子ども像の設定

(1) 資質・能力の設定にあたって

◆防災教育への理解

「生きる力を育む防災教育の展開」(H25年3月, 文部科学省)では, 防災教育の目標が以下のように示された。

ア) (知識, 思考・判断)

- ・地域で起こりやすい災害や地域における過去の災害について理解し, 安全な行動をとるための判断に生かすことができる。
- ・被害を軽減したり, 災害後に役立つものについて理解する。

イ) (危険予測, 主体的な行動)

- ・災害時における危険を認識し日常的な訓練等を生かして, 自らの安全を確保することができる。

ウ) (社会貢献, 支援者の基盤)

- ・自他の生命を尊重し, 災害時及び発生後に, 他の人や集団, 地域の安全に役立つことができる。

また, 「杜の都の学校教育」(H25年3月, 仙台市教育委員会)では, 震災の経験を生かした新たな防災教育が目指す児童の姿を以下のように設定している。

【自助】災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け, 災害時に冷静に判断し, 臨機応変に自らの安全を確保できる児童生徒

【共助】災害時に進んで他の人や地域の力となれる児童生徒

これらの目標や児童の姿を踏まえながら, 平成25年度版新防災教育副読本(仙台市教育委員会)の読み合わせを学年ごとに行い, 具体的な内容を確認した。

◆震災体験をもとにした資質・能力の話し合い

震災の教訓や体験を風化させずに継承していくための防災安全科の創設である。よって, 教員ワークショップにおいて, 震災の体験をもとにしてこれからの児童にはどんな力が必要かを話し合った。出された意見を整理する枠として,

「杜の都の学校教育」で示された防災対応力(平常時における「防災」と, 災害時における「災害対応」)に社会貢献を加えた3つの資質・能力を縦軸に, 知識, 思考・判断, 技能, 態度の4つの観点を横軸として設定した。

震災の体験をもとにした身に付けさせたい力を整理した結果, 以下の点が明らかになった。

- ・縦軸(3つの資質・能力)と横軸(4つの観点)の中に明確に収まるものではない。
- ・防災力(平常時)と災害対応力(災害時)の明確な線引きができず, 両方に同じ内容が含まれてしまう。
- ・平常時, 災害時, 災害後の時系列で設定したが, 社会貢献が災害後とは限らない。
- ・社会貢献は, 知識や技能よりも態度の要素が強い。



育てたい資質・能力を知識，技能，思考・判断，態度のような教科で見られる観点で見ていくか，それとも，総合的な学習の時間で見られる「～する力」というような能力で見ていくか，あるいは，それらを組み合わせた形で見ていくかが課題となった。

(2) 育てたい資質・能力1次案

資質・能力の設定にあたっては，上記のものを整理していき，資質・能力1次案としてまとめた。

◆資質・能力について

資質・能力を3つに分類し，以下のように押さえた。震災後＝社会貢献とはならないので，平常時，震災時，震災後という時系列の捉え方は外した。

<p>〈災害に備える力〉 防災上必要な知識をもとにして，危険を予測する。 【主に知識と技能】</p>	<p>〈災害に対応する力〉 状況に応じて的確に判断し，自らの安全を確保する。 【主に思考・判断と技能】</p>	<p>〈社会に貢献する心〉 自他の生命を尊重し，他の人や地域の安全に役立つ。 【主に態度】</p>
--	---	---

◆観点について

観点の知識，思考・判断，技能，態度は2つが結び付いて資質・能力につながる場合が多いので，横軸は設定しない。「災害に備える力」は主に知識と技能，「災害に対応する力」は主に思考・判断と技能，「社会に貢献する心」は主に態度と観点を明示した。個々の具体的な内容に観点を（ ）で明示した。

◆領域について

各学年から出された具体的な資質・能力の内容を整理していき，ア) からキ) までの7つの領域とした。

<p>ア) 災害の種類や原因等を理解して，日常生活に潜む様々な危険を予測する。 【危険を予測する】</p>	<p>ウ) 情報の収集や伝達の方法を身に付け，自らの行動に生かす。 【情報を活用する】</p>	<p>カ) 自他の生命を尊重し，感謝や思いやりの心を持って行動するとともに，将来に夢や希望を持つ。 【未来を拓く】</p>
<p>イ) 災害時の危険を認識して，学校や家庭で日常の備えを行う。 【日常の備えを行う】</p>	<p>エ) 危険から命を守る方法を身に付け，自らの安全を確保する。 【安全を確保する】</p>	<p>キ) 地域の人と積極的にかかわり，他の人や地域の安全に役立つ。 【地域とのつながり】</p>
	<p>オ) 様々な状況に応じて自分で的確に判断し，素早く行動する。 【的確に判断して行動する】</p>	

◆36の具体的な内容について

各学年から出された具体的な資質・能力をまとめていき，「災害に備える力」は10，「災害に対応する力」は13，「社会に貢献する心」は13，合計36の内容に整理した。

(3) 育てたい資質・能力2次案

防災安全科開発委員会（学校及び市教育委員会）と各学年から出された意見をもとに，1次案をさらに修正し，資質・能力2次案としてまとめた。

〈方向性〉

- 育てたい資質・能力の上位に，目指す子ども像を位置付ける。
- 目指す子ども像に結びつく育てたい資質・能力は，「～する力」，「～する心」で端的に表現し，その下に具体的な内容を明示する。
- 育てたい資質・能力は，自助と共助で設定する。特に，「自らの安全を確保するために主体的に行動することができる」を中心とする。
- 共助は小学校高学年のみに限定せず，感謝や協力のような道徳的価値観など，共助につながるような土台としての資質を低学年から育てる。

〈変更点〉

3つの資質・能力を4つに変更し，区切りをなくした。7つの領域を6つに変更した。

36の具体的な資質・能力の内容を39に変更した。

◆資質・能力について

震災前と震災時という時系列が残り，自助の「備える力」と「対応する力」の区切りがつかないので，捉え方を変更した。自助を「危険を予測し，的確に判断して，危機を回避する能力」に押さえる。共助の部分も，それに伴って2つに分けて設定する。

自助	<p>(1)「危険を予測・判断する力」 ≒ 思考力・判断力 (知識や体験，情報等をもとにして，危険を予測し，状況を的確に判断する。)</p> <p>(2)「安全を確保する力」 ≒ 行動力(表現力) (予測や判断をもとにして，自らの安全を確保するために主体的に行動する。)</p> <p>・「危険を予測・判断する力」は，「安全を確保する力」につながる。</p> <p>・「主体的に～」を具体的な内容の部分に反映していく。</p>
共助	<p>(3)「人とつながる力」 ≒ コミュニケーション力 (自他の生命を尊重し，他の人や地域の人と積極的にかかわろうとする。)</p> <p>(4)「社会とともに歩む心」 ≒ 社会貢献 (地域の一員として，他の人や地域の安全に役立とうとする。)</p> <p>・「人とつながる力」は，「社会とともに歩む心」につながる。</p>

◆領域について

具体的な内容の領域ア)～ク)は，上位の4つの資質・能力につながっていく。1次案の「オ)様々な状況に応じて自分で的確に判断し，素早く行動する。」は，上位の資質・能力と捉えて，削除する。ア)～キ)においても，「予測する」「認識する」「安全を確保する」等は，上位の資質・能力と捉えて，その内容を削除する。

育てたい資質・能力2次案

<p>資質・能力</p>	<p>安全を確保する力 (予測や判断をもとにして、自らの安全を確保するために主体的に行動する。)</p> <p>↑</p> <p>危険を予測・判断する力 (知識や体験、情報等をもとにして、危険を予測し、状況を的確に判断する。)</p>	<p>社会とともに歩む心 (地域の一員として、他の人や地域の安全に役立とうとする。)</p> <p>↑</p> <p>人とつながる力 (自他の生命を尊重し、他の人や地域の人と積極的にかかわろうとする。)</p>	
<p>具体的な内容</p>	<p>ア) 災害の種類や原因等を理解する。</p> <p>① 自然災害の種類や現象、原因等を理解する。(知識) ② 災害発生のメカニズムを理解する。(知識) ③ 地域の特性や起こりやすい災害を理解する。(知識) ④ 自然環境や気象を理解し、自然に対する畏敬の念を持つ。(知識、態度) ⑤ 日常に潜む様々な危険を予測する。(思考・判断)</p> <p>イ) 学校や家庭で日常の備えを行う。</p> <p>① 東日本大震災や過去の災害の様子、伝承等を知る。(知識) ② 東日本大震災や過去の災害の様子、伝承等を教訓として生かそうとする。(態度) ③ 災害時に起こる現象から危険を予測・認識する。(思考・判断) ④ 身の回りや地域の危険な場所を知る。(技能) ⑤ 学校や家庭で避難経路や避難場所、施設等を把握する。(知識) ⑥ 学校で日常の備えを行う。(知識、技能) ⑦ 家庭で日常の備えを行う。(知識、技能) ⑧ 災害直後に家族と連絡を取り合う方法を身に付ける。(技能)</p>	<p>ウ) 危険から命を守る方法を身に付ける。</p> <p>① 話をよく聞いて、冷静に行動する。(態度) ② 困難に負けない強い心を持つ。(態度) ③ いざというときに助けを求める方法を身に付ける。(技能) ④ 学校や地域の避難訓練に真剣に参加し、状況に応じた避難方法を身に付ける。(技能、態度) ⑤ 災害から身を守り、安全を確保する方法を身に付ける。(知識、技能) ⑥ 初歩的な応急措置の方法を身に付ける。(知識、技能) ⑦ ライフラインの重要性を理解し、止まったときの対応を身に付ける。(知識) ⑧ 生き抜く知恵とサバイバルスキルを身に付ける。(知識、技能)</p> <p>エ) 情報の収集や伝達の方法を身に付ける。</p> <p>① 災害時の心の変化を理解し、どう行動するかを考える。(知識、思考・判断) ② 情報を得る手段を知り、状況に応じて的確に情報を得る方法を身に付ける。(知識、技能) ③ 情報の特性を知り、災害時に様々な情報とどう向き合うかを考える。(知識、思考・判断) ④ 情報を伝達する方法を知り、自分や家族等の情報・状況を正確に伝える。(知識、技能)</p>	<p>オ) 感謝や思いやりの心を持って行動する。</p> <p>① 公共性や防災につながる基本的な生活習慣を身に付ける。(態度) ② 感謝の気持ちを表現し、思いやりの心を持って接する。(態度) ③ 他の人と協力し合いながら活動する。(態度) ④ 自然を愛し、自他の生命を尊重する。(態度) ⑤ 特別な支援を必要としている人に気付く。(思考・判断) ⑥ 被災者の気持ちを考えて、支援する。(態度) ⑦ 自分の生き方やこれからの社会を考え、将来に夢や希望を持つ。(態度)</p> <p>カ) 地域の人と積極的にかかわる。</p> <p>① 互いのよさを認め合い、コミュニケーションを取る。(態度) ② 地域の方と積極的にかかわり、地域の活動に参加する。(態度) ③ 防災や復興のため、自治体や民間等の取組を理解する。(知識) ④ 被災体験を伝えることで、社会に役立とうとする。(思考・判断) ⑤ 復旧、復興、伝承のために尽力している人々の努力を知り、自分たちにできることを考えて行動する。(態度) ⑥ 避難所でできることを考える。(態度) ⑦ 防災や復旧、復興、伝承のために学校や地域でできることを考えて、行動する。(思考・判断、態度)</p>

(4) 目指す子ども像

防災安全科において目指す子ども像は、育てたい資質・能力や教師の願い等から設定した。「生きる力を育む防災教育の展開」(H25年3月, 文部科学省)では、防災教育と「生きる力」との関連が述べられている。

防災教育で目指している「災害に適切に対応する能力の基礎を培う」ということは、「生きる力」を育むことと密接に関連している。今日、各学校等においては、その趣旨を活かすとともに、児童生徒等の発達段階を考慮して、関連する教科、総合的な学習の時間、特別活動など学校の教育活動全体を通じた防災教育の展開が必要とされる。

よって、防災安全科を創設する本校では、目指す子ども像を学校教育目標である「豊かな心を持ち、自ら学び、たくましく生きる子どもの育成」につなげていくこととした。

